

# 里神楽ワークショップ in 成城大学 ～生きている神楽～ 事業報告書



2017江戸里神楽公演学生実行委員会

# 0.目次

---

- 1. 開催要項 p.2
- 2. 会場概要 p.3
- 3. 会場レイアウト p.4
- 4. 記録写真 p.5-6
- 5. 神楽写真展 p.7-9
- 6. 資料展 p.10-11
- 7. 物販 p.11
- 8. 制作物 p.12-15
- 9. メディア紹介 p.16-17
- 10. 来場者の感想 p.18
- 11. 会計報告 p.19-21
- 12. メンバー感想 p.22-24

# 1.開催要項

---

## ■開催趣旨

神楽が誕生したのは、神話の時代。天照大神（アマテラスオオミカミ）の関心を引くために、天岩戸の前で天宇津女命（アメノウズメノミコト）が舞ったものが日本で最初の神楽と言われています。その古の時代から現代に至るまで、神楽は時代の状況や人々のニーズに応じてさまざまに変化しながら受け継がれてきました。

神楽というと、伝統的なもの、古典的なものというイメージがあるかもしれませんが。しかし実際は、常に変化し続けており、その中身は不変ではありません。

今回のワークショップでは、神楽の歴史を振り返りその実態を知ると同時に、現役の神楽師の取り組みを通して、今まさに「生きている神楽」を皆様にお届けすることを目的に開催します。

## ■企画内容

第1部 講義「神楽の歴史と変化」13:00～13:30

講師 俵木悟先生(成城大学文化史学科 准教授)

第2部 実演&ワーク「神楽の現在と未来」13:40～14:40

演者 垣澤瑞貴さん(相模里神楽 垣澤社中)

第3部 第3部 出演者対談 14:50～15:30

俵木悟先生 垣澤瑞貴さん 田村明子さん(成城大学民俗学研究所 研究員)

■開催日時 2018年3月21日(春分の日、祭日) 13:00～15:30

■会場 成城大学 3号館 311教室

■定員 40名(一般、学生)

■参加費 一般 1,000円 学生 500円

■主催 2017江戸里神楽公演学生実行委員会

■協力 成城大学民俗学研究所

## 2.会場概要

会場名 成城大学 3号館311教室

住所 〒157-8511 東京都世田谷区 成城 6-1-20

アクセス 成城学園前から徒歩4分

■会場前面



■客席・物販



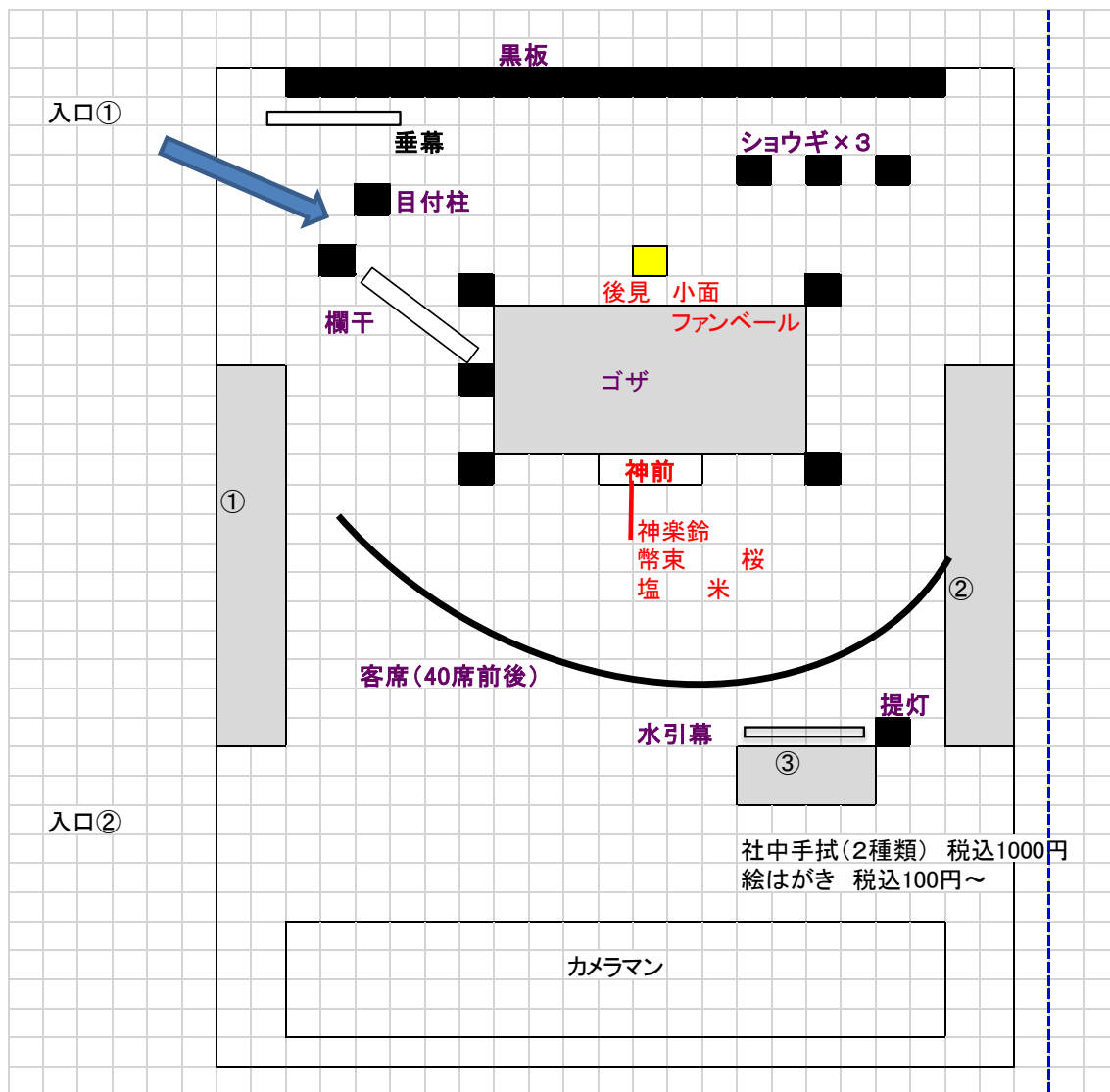
■神楽写真展



■成城学園正門前看板



### 3.会場レイアウト



- ① 資料展（江戸里神楽公演プログラムなど）
- ② 神楽写真展
- ③ 物販

## 4.記録写真



副委員長挨拶（鈴木彩子）



第1講座（俵木悟先生）



第2講座 笛（垣澤瑞貴さん）



第2講座 神前舞（垣澤瑞貴さん）



第2講座 このはなさくやひめ 木花咲耶姫（垣澤瑞貴さん）



第2講座 このはなさくやひめ 木花咲耶姫（垣澤瑞貴さん）





第2講座 ワークショップ（垣澤瑞貴さん）



第2講座 ワークショップ（垣澤瑞貴さん）



第3講座 出演者<sup>ていだん</sup>鼎談

（俵木悟先生、垣澤瑞貴さん、田村明子さん）



全員での記念撮影

（出演者、お客様、スタッフ）

## 5.神楽写真展

本講座のテーマ「生きている神楽」に則り、昔から現在までの垣澤社中に関する写真を11点、歴史順にご紹介。

### 展示スペース



### 展示写真一覧



① しきさんばそう 式三番叟（提供：垣澤社中）



② ひゅうがのあわぎがはらのみそぎばらい 日向之阿岐原身御祓（提供：垣澤社中）





② 鶴退治 (提供：垣澤社中)



④ 山狩り (提供：垣澤社中)



⑤ 神前舞「奉幣之舞」 (撮影：戸津井直次郎)



⑥ 新作面芝居「紅葉狩」 (撮影：堀江正次)



⑦新作神楽「<sup>ねのくにしれん</sup>根国試練」（撮影：戸津井直次郎）



⑧新神楽舞「<sup>このはなさくやひめ</sup>木花咲耶姫」（撮影：斎藤修平）



⑨垣澤社中のお囃子（提供：垣澤社中）



⑩垣澤社中の神楽面（撮影：堀江直次）



⑪神楽面制作風景（提供：斎藤修平）



## 6.資料展

実行委員会がさいたま芸術劇場で開催してきた神楽公演プログラムや、昨年行われた文教大学特別公開講座の資料など多くの資料を展示。どれも他では手に入らない貴重な資料ばかりである。



### 展示資料一覧

(1) 第1～9回江戸里神楽公演プログラム・神楽面写真集

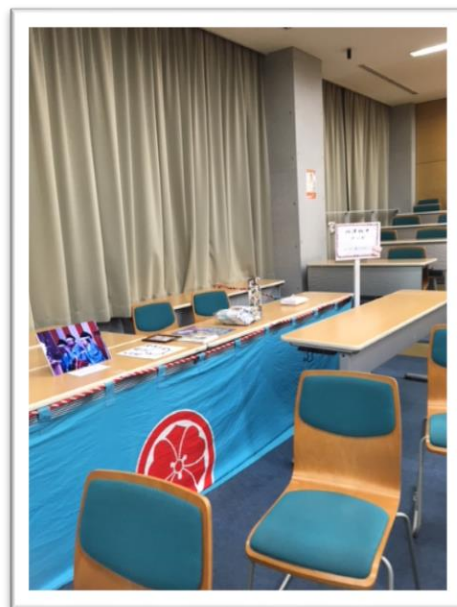


(2) 文教大学特別公開講座



## 7. 物販

垣澤社中オリジナルの手ぬぐいや、川崎直樹さん作のポストカードやマグネットを販売。



## 8.制作物（チラシ・プログラム）

### (1) チラシ（制作：江戸里神楽公演学生実行委員会 川名 瑞希）

**3/21（祝） 13:00～**

**講座** 講師：依木悟  
全国の神楽の歴史と変化  
を分かりやすく解説！

**ワーク** 講師：垣澤瑞貴  
創作舞「木花咲耶姫」を実際  
に体験してみよう！



**里神楽ワークショップ in 成城大学**

～生きている神楽～

**実演** 演者：垣澤瑞貴  
さまざまに変化して  
きた神楽の現在を実演と  
共にご紹介！

場所：成城大学 3号館311教室  
(小田急線 成城学園前駅)  
一般 1,000円 学生 500円

お申込み・お問い合わせ  
TEL 090-9953-0299  
E-mail edosatokagura09@gmail.com

詳細はこちら



ホームページ「江戸里神楽公演」  
<http://www.kagura-noem.com/>

主催：2017江戸里神楽公演学生実行委員会  
協力：成城大学民俗学研究所

里神楽ワークショップ in 成城大学 ～生きている神楽～

**これが神楽の現在！わかりやすく 面白い 神楽体験講座**

神楽が誕生したのは、神代時代。天照大神(アマテラスオホミカミ)の関心を引くために、天照戸の前で天宇津女命(アメノツメノミコト)が舞ったものが日本で最初の神楽と言われています。その古の時代から現代に至るまで、神楽は時代の状況や人々のニーズに応じてさまざまな変化しながら受け継がれてきました。神楽というと、伝統的なもの、古典的なものというイメージがあるかもしれませんが、しかし実際は、常に変化し続けており、その中身は不安定ではありません。

今回のワークショップでは、神楽の歴史を振り返りその実態を知ると同時に、現役の神楽師の取り組みを通して、今まさに「生きている神楽」を皆様にお届けすることを目的に開催します。

◆ **タイムスケジュール**

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 12:30 | 受付開始 主催者挨拶                          |
| 第1部   | 講義「神楽の歴史と変化」 13:00～13:30            |
|       | 講師 依木悟先生（成城大学文化史学科 准教授）             |
|       | 一休 10分                              |
| 第2部   | 実演＆ワーク「神楽の現在と未来」 13:40～14:40        |
|       | 演者 垣澤瑞貴さん（相模原市立 垣澤社中）               |
|       | 一休 10分                              |
| 第3部   | 第3部 出演者対談 14:50～15:30               |
|       | 依木悟先生 垣澤瑞貴さん 田村明子さん（成城大学民俗学研究所 研究員） |

◆ **お申込み**  
電話またはメールで3月10日までにお申し込みください。（一般 1,000円 学生 500円）  
ご連絡時にお名前・ご連絡先・学生かどうかをお伝えください。  
※定員40名様となりますので、できるだけお早めにお申し込みください。  
TEL 090-9953-0299 E-mail edosatokagura09@gmail.com

◆ **アクセス**



小田急線 成城学園前駅 北口より徒歩5分

※急行は停車しますが、快速急行は停車しませんのでご注意ください。

※駐車場はご利用のできませんので、自動車でお越しはご注意ください。



(2) 当日配布プログラム（制作：江戸里神楽公演学生実行委員会 鈴木彩子、玉井里奈）

江戸里神楽公演学生実行委員会 主催  
成城大学民俗学研究所 協力

里神楽ワークショップ in 成城大学  
～生きている神楽～

平成三十年三月二十一日（水・祝）  
開演 十三時

主催者挨拶  
第1部 講義「神楽の歴史と変遷」13:00～13:30  
講師 徳本 悟先生（成城大学文化史学科 准教授）  
第2部 実演ワークショップ「神楽の現在と未来」13:40～14:40  
演者 垣澤 瑞貴さん（相模原市神楽 垣澤社中）  
第3部 出演者座談会 14:50～15:30  
徳本 悟先生、垣澤 瑞貴さん、田村 明子さん（成城大学民俗学研究所研究員）

表紙

相模原市神楽垣澤社中

神奈川相模原市西原を拠点として里神楽や国芝居、歌舞子、獅子舞を伝承している。伝承する相模原市神楽は相模原市指定無形民俗文化財である昭和46年指定。

神楽部・本間平太夫（昭和46年）の弟子であった垣澤龍造氏が明治45年に垣澤社中を興した。安永神楽を継承する家傳家傳本（市）と相模原市となり、新野家が継承したのは垣澤家がその神楽部を受け継いだ。現在は龍造氏の父である龍氏が三代目の家元を務め、相模原市内の神社・教育委員会主催の保存公演などへの参加のほか、里神楽に親しむための活動を積極的に行っている。

（写真：垣澤龍造氏提供 神奈川県立青少年センター公開時に撮影）

里神楽

広義には室中の神楽以外の民間の神楽をいい、狭義には一般に江戸の里神楽をさす。垣澤社中が伝承するのは、『古事記』や『日本書紀』などの神話を題材とした「神代神楽」で、面をつけて行う舞劇である。神代神楽の発祥は定かではないが、近世初期に興り、十七世紀後半から盛況に上ったと考えられている。神奈川版ではもっぱら「神代神楽」と呼ばれるが、他県では江戸神楽、初音神楽、太々神楽、十二指神楽、廿五指神楽などと呼ばれる。江戸を中心とした里神楽では、神楽師と呼ばれる専門の神楽社中が、神社の要請に応じる形で祭りの際に神楽を演じている。

神代神楽が舞踊劇化したのは、寛政25(1793)年に江戸で興った京都壬生寺の壬生狂言中世に発生した狂言神楽で、舞目は能や物言などから取った影響を受けたものとされる。舞化した江戸とその周辺の神楽が相模原地方に伝わったといわれる。舞と所作で物語が展開され、観客などの役割で「もどき」と呼ばれる演出が展開する。役者は太鼓子、太鼓、鼓太鼓、笛、鉦が用いられる。

面芝居

面芝居とは明治初期に考案された里神楽が演じる歌舞狂言のパロディで、明治・大正時代には「受舞の新神楽」として各地で盛んに演じられた。

面をつけてセリフを演ずることが特徴であり、発声しやういように面の口辺がやや傾いているほか、神代神楽に比べてより人間らしく芝居がかった面振となっている。

現在、神奈川県内で面芝居を継承するのは垣澤社中のみで、神楽のもどきの面白さを取り入れた三つの舞目をも、劇場を中心に公演している。

参考文献

江戸里神楽公演学生実行委員会 2016『第1回 集して、わーいやう！江戸里神楽公演プログラム』 2004『日本の民謡・民謡・民謡』 関東地方の民謡音楽 4 神奈川 高野書店  
水田清子 1987『神奈川民謡音楽』 徳誠社  
福田アツシほか編 1999『日本民謡大辞典』 3 吉田弘太郎  
吉田一 2013『神奈川民謡音楽』

垣澤社中・神楽解説

講師紹介



**第一部 講師**  
**徳本 悟**（ひょうき ひとし）  
成城大学 文学部 文化史学科 准教授、博士（学術）  
1999年 千葉大学 社会文化科学研究科 都市研究専攻 博士課程修了。  
専門分野：民俗学、芸能伝承の民俗学的研究、無形文化遺産保護政策の研究、  
中国地方音楽や民謡、千葉県南相模地域などを主なフィールドとして  
民謡音楽の伝承についての研究。現代社会において伝統的な慣習に限定  
される音楽を伝承することの困難さや、そこから生まれる新たな実践に関心  
を持っているほか、文化財保護制度を中心に民俗文化と行政の関わりにつ  
いての発言も行っている。

成城大学ウェブサイトより引用、加筆（写真、本文）  
[http://www.geidai.ac.jp/about/education/faculty/faculty\\_profiles/faculty\\_profiles.htm](http://www.geidai.ac.jp/about/education/faculty/faculty_profiles/faculty_profiles.htm)  
©2018年2月10日閲覧



**第二部 講師**  
**垣澤 瑞貴**（みずき ずき）  
相模原市神楽垣澤社中三代目家元 垣澤龍造氏の次女、「みずき会」代表。  
幼少より神楽舞に携わり、相模原市神楽の継子、舞を父に継ぐ。10  
歳で太鼓、11歳で太鼓子、12歳で舞子、14歳で相模原市神楽社中では  
主舞と呼ぶ。18歳で式三番を学ぶ。国学院大学文学部にて日本文化を専  
攻し、その後、江戸里神楽多摩加支中の高見恵理子、日本舞踊玉川流師範  
の玉川龍之助師範、江戸型染を主軸に制作活動を行う著名な若手染色家の小  
倉光子氏に師事し、神楽部を継ぎ続けている。

近年は新作神楽や新作面芝居にも積極的に取り組み、自らの民謡・民謡  
劇場（民謡）や民謡音楽（神楽）の公演等、活躍の場を出している。インバ  
ウンド企画など新しい取り組みも多数。地域の音楽や各種イベントでの獅子  
舞や神楽、和楽器演奏も行っている。

「相模原市市民協会の2016江戸里神楽公演学生実行委員会『集して、わーいやう！江戸里  
神楽公演プログラム』より一説引用  
（写真：垣澤龍造氏提供 神奈川県立青少年センター公開時に撮影）

**田村 明子**（たむら あきこ）  
2012年 成城大学文学部日本文化専攻文学専攻単位取得退学。現在は成城大学民俗学研究所研究員。  
第8回江戸里神楽公演に学生スタッフとして参加。  
「女性神楽師の誕生と伝承基盤—埼玉県神楽の近現代—」(2015『民謡音楽研究』第58号 民謡音楽学会)、「都  
市の大社と里神楽—大國神社と山本社中—」(2016『伝説』第68巻第1号 伝説学会)など、江戸の里神楽  
を中心に研究を進めている。

講師紹介

MEMO

特別協力  
〇垣澤社中の皆様  
舞台介助 徳本 悟先生、高野 史枝  
数珠振動 垣澤 瑞貴  
物語 川崎 龍造  
広報協力  
相模原市（成城ホール）、相模原市、成城大学、  
東京新聞、東京新聞  
撮影協力  
田村 明子、平島 裕子  
協力  
〇成城大学民俗学研究所  
佐藤 三先生、林 洋平  
主催  
2017 江戸里神楽学生実行委員会  
〇学生スタッフ  
高野 史枝（実行委員長）、鈴木彩子（副委員長）、  
川崎 龍造、玉井 里奈、高野 史枝  
「里神楽ワークショップ in 成城大学—生きている神楽—」  
構成・文責 玉井 里奈、鈴木彩子  
制作 発行 2017 江戸里神楽学生実行委員会  
発行年月日 2018年2月21日  
印刷 成城大学民俗学研究所

裏表紙



(4) 江戸里神楽ホームページ（制作：江戸里神楽公演学生実行委員会 宮崎 優香）

([http://www.kagura-kouen.com/sei\\_joworkshop.html](http://www.kagura-kouen.com/sei_joworkshop.html))



## 9.メディア紹介

(1) 成城大学ホームページ（制作：学校法人 成城学園 企画広報部 企画広報課）

(<http://www.seijo.ac.jp/events/jtmo42000000k6ty.html>)

 成城大学

在学の方へ | 卒業生の方へ

入試情報 | アクセス | お問い合わせ | 寄付 | ENGLISH |   

成城大学について | 教育 | 研究 | 社会貢献 | キャリア | 国際交流

HOME > イベント > 里神楽ワークショップ in 成城大学 - 生きている神楽 - 【終了しました】

### イベント

前の記事

**里神楽ワークショップ in 成城大学 - 生きている神楽 - 【終了しました】**  
開催日：2018.03.21

次の記事

成城大学は、江戸里神楽公演学生実行委員会が主催する神楽体験講座「里神楽ワークショップ in 成城大学」を3月21日（水・祝）に開催します。

江戸里神楽公演学生実行委員会とは、「楽しくてわかりやすい神楽」をテーマに掲げ、偉大な神々の世界をユーモアあふれる演出でまとめた伝統芸能「神楽」を様々な世代や海外に伝えようと公演を行っている学外のボランティア組織。本年度の実行委員長を当大学文芸学部が担当していることから、日本民俗学の祖である柳田泉男と縁の深い成城大学民俗学研究所が全面協力し、3月に「里神楽ワークショップ」を開催する運びとなりました。

「里神楽」とは、神社の祭礼を中心に行われている芸能のことで、面や装束を身に着けた演者が身振り手振りで表現するのが特徴。今回のワークショップでは、神楽の歴史をたどる鑑賞や現役の神楽師による実演、神楽の舞体験などが予定されています。「神楽の今」を知ることのできる体験講座へのご参加をお待ちしております。



[ポスターPDFはこちら](#)

**里神楽ワークショップ in 成城大学 - 生きている神楽 - 開催概要**

日時：2018年3月21日（水・祝） 13：00～15：30  
場所：成城大学3号館 311教室  
内容：神楽鑑賞&ワークショップ

第1部 鑑賞「神楽の歴史と変遷」13：00～13：30  
講師：徳木浩先生（成城大学文芸学部文化史学科 准教授）

第2部 実演&ワーク「神楽の現在と未来」13：40～14：40  
演者：垣澤瑞貴さん（相模里神楽 垣澤社中）

第3部 出演者対談 14：50～15：30  
徳木浩先生・垣澤瑞貴さん・田村萌子さん（成城大学民俗学研究所研究員）



平成30年(2018年)2月16日 金曜日 13版 (東京) 26

## イベントガイド

### 東京

◇里神楽ワークショップin成城大学 3月21日午後1時～3時半。世田谷区の成城大学3号館311教室。里神楽の歴史と神楽祭による実演、体験。参加費・観1000円、学生500円。申し込みは☎090・9593・0299、メールedostokotagura9@gmail.com。3月10日締め切り。

◇ちよだて鑑賞まつり 17日午前11時～午後6時、18日午前10時～午後5時。千代田区役所1、4階。猫の足音などを表現する区民。猫グッズや猫のキャラクターを販売し、収益を不幸な猫の医療費に活用。音楽や落語のライブ。18日は猫の展覧会(午前11時半～整理券配布)など。【関】☎070・1493・2828。

◇梅雪の直展へ 3月4日まで。文京区の小石川後楽園。約90本の紅白梅が見頃。シタレザクラ前広場では庭園めぐりの水戸石門の衣装で記念撮影も可能。水戸の名産品販売や催し物。17～23日はJR水戸線駅西口徒歩5分の東門の5部門。【関】☎90・9593・0015。

### 千葉

◇さくら鑑めぐり 江戸の両端の面影を残す香取、佐原の古い街並みで、商家などが代々伝わる古い名品などを展示。季節ごとの「家宝」を行業者によるなりと取り組みの一環で、「佐原ふるさと館博物館」登録の約70店舗などで。3月25日まで。【関】☎080

### 神奈川

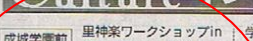
★第33回友好桜花市花巻の物語と観光展 18日まで。平塚市のひらつち市民プラザ。午前10時～午後6時(18日は5時まで)。平塚市の歴史館である岩手県花巻市。花巻のお米をはじめ、銘菓や漬け物などを平塚で販売する。【関】☎463・25・2520。

★観梅会 3月4日まで。横浜市中区の三溪園。午前9時～午後5時(入園は4時半まで)。約900本の桜、紅梅などが見頃を迎える。竜が池をはうような枝振り「臥龍梅」、花弁の桜元にある梅(若く)が緑色の「緑萼梅」は必見。梅の盆栽数など合わせて大に楽しめる。入園料大木100円など。【関】☎045・621・0634。

★姉手さんまつり 横浜18日まで。横浜市中区の「嵐の博物館」。午前10時～午後4時半(入園は4時まで)。姉手たちの姿をクローズアップした絵画や彫刻を紹介するとともに、資料を通して著名姉手さんについても知ることができテーマ展。入館料大木100円など。【関】☎045・662・7581。

### 埼玉

★奥宮ふなまつり 24日～3月3日。狭山市の奥宮ふなれい館ふるさとギャラリー奥宮。午前10時～午後4時。明治時代のもみや、大小さまざまなおひなさま500体が勢ぞろい。手作りのしなやかなおひなさまも。入場無料。【関】ふるさとギャラリー奥宮実行



# Culture Infomation

**「Responsible 研究会」発足記念**

**神保町**

関係者に絶対対峙して話し  
依存関係を全肯定 28日  
TKPカリーセンターPR  
保町 一般社団法人RCPC  
村直之さん同会、ナトリ  
立大大学院法学研究科精神  
安定室主任教授、弁護士S  
の認定NOP法人フテアチ  
コリ厚さん、北里大東洋  
の朝倉清夫特任助教、自民  
の宇野史生さん。参加費5  
0でRCPCのホームページ  
へ。一般社団法人RCPC  
03(6262)7686

**新宿**

秋田雨彦、土方  
場剛118回公演「

**「カルチャー・インフォメーション」**

**成城学園前**

里神楽ワークショップin  
成城大学へ生きている神  
楽へ 3月21日13時～15時半、成城大学  
3号館311教室（小田急成城学園前  
駅）。神楽の歴史を振り返ると同時に、  
現代の神楽の取り組みを紹介。参加費  
は一般1000円・学生500円。定員40人。  
参加申し込みは3月10日まで。申し込み  
と電話0171戸里神楽文化研究会実行委員会  
へ電話090(9953)0299、FAX cedorosato  
agura.0@gmail.com

**中野**

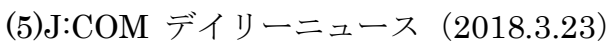
憲法関連講座学習講座第30回  
「ナチスの時代」と現代日本へ  
緊急事態宣言は危険なのか～を  
5日13時半、中野区産業振興センター3階  
大会議室（JR中野など中野駅）。東京大

学の石田勇治教授（ドイツ近現代専  
攻）の講演。資料費800円（大学生400円  
・中高生無料）。申し込み不要。◎NP  
Oはみんなの広場一電03(6454)0993

**後楽園**

第34回保交文交流研究会「今  
日の「出合い」を明日の子育てへ」  
2日10時～16時半、文京立正第二中学校  
（駅直上）と南北地区など後楽園駅。東  
成徳大さんとも学部関係の下浦忠治さ  
んの講演、対会分交流会。保育室の用  
意あり。対象は3歳以上で保育料は300  
円。参加費700円、スリッパの上履きを  
持参。保育会は申し込みが必要。問い合わせは実行委員会事務局阿田さんへ電  
090(3907)5213

(<https://mainichi.jp/univ/articles/20180326/org/00m/100/005000c>)





## 10.来場者の感想

---

当日のご来場者様アンケートで頂いたご感想を一部抜粋してご紹介いたします。

### 第1講座

- 俵木先生の第1講座がよかった。もっと話を聞きたかった。広島神楽と今日の神楽はかなり異なるので驚いた。(50代男性)
- 俵木先生の講義を聞かせてもらい、その中で私がやっている伊勢神楽の話題が出てとても興味を持ちました。自分がやっている神楽をやっている神楽を取り上げてもらえるのは嬉しいです。(年齢非公開・男性)

### 第2講座

- 体験もできてとても楽しかったです。時間を長くして一演目くらい観られたらより嬉しいです。(20代男性)
- 初めて興味を持って参加しましたが楽しめました。舞も観られて良かったです。本物の赤ちゃん登場に大爆笑！(40代男性)
- 垣澤さんの新作の舞はなかなか斬新でよかった。新しい神楽をどう現代に生きる様にしていくかを考えさせられました。変わらなくてはならない部分と変えてはいけない部分のバランスをどうするかが、課題となろう。(70代男性)
- 「生きている神楽」のタイトル通り、要所要所で使われた映像が大変効果的で、私のようなものでもわかりやすかったです。お子さんの成長に合わせて創作されるという、今後の神楽も楽しみです。(40代男性)
- 舞、所作、スリ足、膝曲げが慣れないため難しく感じた。(60代男性)

### 全体を通して

- 私はお神楽を神社の舞台で見たいと思っていますがなかなか機会がないので、今回のようなレクチャーと両方で理解をしていきたいです。大学でお神楽を拝見する時代になったのだなとしみじみ思いました。(60代女性)
- 大変熱のこもったイベントだった。機会があったらまた参加したいと思います。(70代男性)

## 11.会計報告

---

### 収入

江戸里神楽公演学生実行委員会 41,050

参加費 46,000 (一般 44 人 学生 4 人)

寄付 22,000

---

109,050

### 支出

出演料 20,000

配布用菓子 10,000

広告費 10,000

お弁当 10,000

装飾品 3,000

小道具 (バインダー・ファイル) 2,050

お土産 20,400

郵便代 1440

懇親会 8,000

繰り越し 24,160

---

109,050

## <参考資料>第九回公演江戸里神楽公演会計資料

実行委員会最後のさいたま芸術劇場公演（第九回公演）の会計資料を掲載します。収支報告は、事業の内容を伝える重要な資料だと考えています。

### ● 支払い概算一覧（支出総額）

|            |          |
|------------|----------|
| 出演団体謝金     | 150,000円 |
| 会場使用料金     | 207,730円 |
| 音楽著作権      | 9,000円   |
| 印刷費        |          |
| チラシ印刷費     | 21,600円  |
| プログラム印刷費   | 918,540円 |
| ポスター印刷費    | 10,000円  |
| チケット印刷費    | 21,600円  |
| コピー費       | 5,550円   |
| 写真代        | 7,570円   |
| 通信連絡費      | 112,435円 |
| 文具関係費      | 26,611円  |
| 手土産代       | 33,480円  |
| 食糧費        | 22,963円  |
| 翻訳監修費      | 50,000円  |
| 掲載新聞購入費    | 1,302円   |
| WEB 経費     | 2,589円   |
| 字幕機材レンタル費  | 18,900円  |
| 動画撮影・写真撮影費 | 50,000円  |

学生スタッフ納会支援費            10,000円

支出総額                            1,679,870円

● 収入一覧（収入総額）

昼公演入場収入            455,000円

プログラム販売            13,000円

会場寄付                    86,565円

昼合計                        554,565円

夕公演入場収入            448,000円

プログラム販売            5,000円

会場寄付                    112,620円

夕合計                        565,620円

昼公演並びに夕公演収入総計   1,120,185円

協賛会社収入                320,000円

収入小計                    1,440,185円

シニアスタッフ支援金            239,685円

収入総額                    1,679,870円

## 12.メンバー感想

---

### 実行委員長 成城大学 4 年 馬場 綾音

3 月 21 日、「里神楽ワークショップ in 成城大学」は雪に桜という幻想的な景色の中で開催されました。私たち成城大学の学生による拙い進行ではありましたが、若い方からお年寄りまで幅広い年代のお客様がいらっしやり、講義・演舞・体験という多様なプログラムを楽しんで頂くことができました。

私たちが本イベントを企画したきっかけは、昨年 10 月に行われた「文教大学特別公開講座」です。私たち 2017 江戸里神楽公演学生実行委員会（以降実行委員会）は協力団体として参加し、研究者から直接神楽に関する講義を聞くことにより、何の知識もない状態で見ると神楽の魅力を発見できることが分かりました。これだけで終わるのは勿体ない。私たちの力だけで、もっと多くの人に神楽の魅力を伝えたい。そんな思いでこの企画を打ち出しました。

一から自分で企画書を作り依頼状を出す、ということは私にとって初めての試みでしたので、成城大学民俗学研究所の林洋平先生を始め多くの人に相談を受けながら進めていきました。よって関係者の方へ無礼な点や準備不足な点も多くお見せしてしまいましたが、出演者・関係者の方が本イベントの価値を高く捉え真剣に取り組んで頂いたおかげで無事当日を迎え、ご来場者の方もそれぞれの思いを感じながら楽しんで頂くことができました。

「第 9 回江戸里神楽公演」から約 2 年間実行委員会として活動してきた私にとって、本イベントは最後の活動となり、集大成として持つすべてを注ぎ込もうと尽力して参りました。その結果、「大学での神楽ワークショップ」のパイオニアとなることができ、これからも神楽の魅力を伝える機会へと繋がっていくことを大変喜ばしく思っております。神楽がもっと多くの方の心に届くことを、心よりお祈りしています。

### 副実行委員長 成城大学大学院博士課程 2 年 鈴木 彩子

今回のワークショップは、企画段階から実施に至るまで、成城メンバーで一つ一つ話し合いながら進めることができ、とても楽しかったです。垣澤瑞貴様や家元様、俵木先生、民俗学研究所の林様や田村様など、この企画を通じて多くの方とお話しできたことも、とても貴重な経験でした。

瑞貴様から、成城のワークショップが神奈川大学の企画や新しいお弟子さんなど、新しい展開につながっていると伺って、改めて嬉しく思います。この実行委員会は、新しいことや興味があることに挑戦する「場」を提供してくれました。神楽師の方も実行委員メンバー自身も、携わった人が一番得する（楽しい、普段出会えない方と出会える、貴重な経験ができる、等という意味で）、という会だと思います。私自身も瑞貴様や実行委員メンバーとの出会いを通じて、自分が将来やってみたいことを再確認できました。



博士課程前期 1 年の時に実行委員のメンバーとして活動できて、本当に良かったです。

## メンバー 成城大学大学院博士課程 2 年 川名 瑞希

里神楽ワークショップでは客席に椅子を用意しましたが、はじめ客席をゴザにするという案がありました。その話が出た時、俵木先生が「もともと神楽もゴザとかに座って見るものだったんだよ」と仰っていたのがとても印象に残っています。かつてはそんなに近くにあるものだったのか、ということをしみじみと感じました。現在ではホールや講堂などで遠くから鑑賞することも多くなった神楽ですが、今回のワークショップでは非常に近い位置で見ている人も一緒に楽しむことができたのではないのでしょうか。

現代では神楽を身近に感じられる機会は少なくなっています。私自身も、これまで抱いていた神楽への印象は「遠い」ものでした。このような人々が増えていく社会の中で、神楽をどう続けていくか、その魅力をどう伝えていくかを試行錯誤する垣澤さんや社中の方々の姿を知ることが出来、とても良い機会になったと思います。

## メンバー 成城大学大学院博士課程 2 年 玉井 里奈

今回のワークショップは、普段神楽に親しみのない人々をターゲットとし、講座や実演、ワークを通して、神楽への理解を深めていただくことをねらって企画されたものである。

本ワークショップのテーマをいかにするかを考えたときに思い出したのが、垣澤社中の神楽師・垣澤瑞貴氏の「古典も生もの」という言葉だった。垣澤氏は、社中の里神楽を継承する傍ら、新たな神楽の制作・上演も積極的になさっている。そして、垣澤社中もまた、時代に応じて様々な演目・上演形式を模索しつつ、今日まで存続してきた。

おそらく、神楽に初めて触れる人々が神楽に対して抱くイメージは、「古くから変わることなく受け継がれてきたもの」「古典」といったものなのではないだろうか。しかし現実をみれば、先代の形式を継承しつつも決して不変ではなく、それぞれの神楽師の工夫や試行錯誤を経て、神楽は今日の姿になっている。そしてその存続には、神楽を見ることを楽しみ、あるいはより所としている人々の存在も欠かせない。

そのような神楽のありようをあらわす言葉として思い至ったのが、「生きている神楽」だった。

## メンバー 成城大学 4 年 宮崎 優香

当日雪という足元の大変悪い中行われたワークショップは、大盛況に終えることができ大変光栄に思っています。

普段の生活の中で「神楽」に触れる機会がなかなかないような人たちにも少しでも神楽の魅力、楽しみ方を伝えることができるような講座になったと思っています。

しかし今回ワークショップに足を運んでいただけたような方々は少しでも神楽に興味を持っていた方々がほとんどであるはずです。なので今後の課題としては、まったく神楽というものに関心のなかった人たちにもその存在を少しでも興味を持ってもらえるような活動を行っていくことも必要なのではないかと感じさせられました。

『里神楽ワークショップ in 成城大学 ～生きている神楽～ 事業報告書』

2018 年 7 月 6 日 発行

制作発行      2017 江戸里神楽公演学生実行委員会

ホームページ <http://www.kagura-kouen.com/>

E メール      [edosatokagura09@gmail.com](mailto:edosatokagura09@gmail.com)